

平成 29 年度第 4 回千葉市環境影響評価審査会での委員意見と事業者見解

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解	備 考
1	事業計画	施設規模	千葉市では、焼却処理量を 220,000 トンまで削減することを目標としており、これは 1 日あたり約 600 トンとなる。それに対し計画施設の規模は 585 t/日としており、市全体の処理量に対しかなりの処理能力となっている。2 つの清掃工場をどのように運用していく計画なのか。 このような数字の関係がわかるような資料を作成していただきたい。	計画的な施設整備を行うにあたって、平成 43 年度を 3 用地 2 清掃工場体制の計画目標年次としています。平成 43 年度の焼却ごみ量の推定値を 2 等分すると、522 t/日となります。北谷津新清掃工場では、最終処分場の延命化を考慮し、このほかに他施設から排出される焼却主灰や破碎不燃残渣についても処理を行う計画です。したがって、焼却ごみは 2 清掃工場で等分しますが、北谷津新清掃工場については処理能力が大きくなっています。 なお、220,000 トンは削減目標であり、施設規模の設定にあたっては人口推移の状況などを踏まえた推計値をもとに算出したごみ量を用いて、安全側で設定しています。 準備書の段階では、これらの関係がわかりやすくなるよう整理します。	
2	事業計画	処理方式	可燃ごみだけでなく焼却主灰や破碎不燃残渣など、3 種類のごみが同じ炉の中に入ることになるが、性状が違うので溶融が難しいのではないのか。	各々の性状を調査しており、混ざった時に想定されるごみ質に基づきメーカーから処理方法の提案をしてもらう計画です。 他の市でも同様の処理を行っている事例もあり、本施設でも処理は可能であると考えています。	
3	事業計画	処理方式	配慮書において発電量の比較なども行っているが、処理方式選定の際に、アセスメント結果のプラス面をどのように評価するのか。	計画施設は、PFI 的手法の DBO 方式（公設民営）での一括発注を考えています。手続きの中で PFI の委員会があり、学識者の意見も踏まえながら、技術評価の重みづけを設定していきます。ご指摘のあった発電量や実績、3 種類のごみの処理ができるか等の技術的な面の重みづけと、金銭的な面の、総合評価で建設事業者を決定して参ります。 なお、詳細については今年度中に決定し、来年度中には業者を選定する予定です。	
4	事業計画	—	スラグについて、再利用の見込みはあるのか。	現在新港清掃工場からも年間約 5,000 トンの溶融スラグが発生していますが、市内や県内の道路のアスファルトに混ざる形で再資源化を行っています。 計画施設については、それ以上のスラグの発生が想定されることから、現在行っていることのほかに、メーカーからの提案も受け、最終的に決定していきます。	

平成29年度第4回千葉市環境影響評価審査会での委員意見と事業者見解

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解	備 考
5	事業計画	公害防止計画	景観計画として、周辺環境と調和するデザインにするという記載があるが、パワーポイント資料の表紙のパス図を見ると非常に存在感があり、記載と一致しないように思われる。 特に建屋の高層部については背景が空になることから、位置づけにとらわれず、空に溶け込むような色彩にしていきたい。	千葉市では「海、まち、里」という位置づけに則り施設整備を行っています。計画施設はこのうち「里」の地域になり、茶色がイメージカラーとなっており、関係部署と協議して決定しました。 建設事業者決定後、ご意見を踏まえて関係部署と、再度協議、検討します。	
6	事業計画	公害防止計画	景観計画として、シンボリックなデザインにする、との記載もあるが、シンボリックな部分はどこになるのか。	煙突が130mと高くなることから、シンボリックな部分になるかと考えています。	
7	配慮書関連	処理方式	処理方式による比較にあたっては、ピーク同士の比較ではなく、実際の稼働状況に基づいた比較を行うべきではないか。 予測や比較にあたっての前提条件を資料に記載していただきたい。	処理能力や排ガス処理設備の設計にあたっては、搬入されるごみ質の分析結果を踏まえて設定しています。 計画施設は195 t/日×3炉であり、1炉あたり80%程度以上の焼却量を確保しないと性能を満足できないといわれており、1炉あたり80%程度以上の負荷になるよう、操炉計画を作成し、維持管理していきます。	
8	市長意見	大気質、温室効果ガス等	温室効果ガス削減のため、施設での発電やパッカー車への天然ガス車の導入などを挙げているが、運用面なども考慮し、長期的に見て影響が最も小さくなる事業計画としていただきたい。	施設での発電については、事業計画に反映することを考えています。 パッカー車については、長期的な視点での目標としており、ご指摘の件については、今後検討していきます。	
9	調査・予測・評価	項目選定	対象事業実施区域内の池については埋め立てをする可能性もあるという話であったが、地形改変による水生生物は選定しないのか。 もし埋め立てる場合には、底生生物などもあるため、影響評価を行っていただきたい。	水生生物については、工事による影響を対象に予測・評価を行うこととしております。 なお、今後の計画の検討の中で池を埋め立てることとなった場合には、地形改変による影響についても併せて予測・評価し、準備書に反映いたします。	

平成29年度第4回千葉市環境影響評価審査会での委員意見と事業者見解

No.	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解	備考
10	調査・予測・評価	大気質	水銀や微小粒子状物質について、公害防止基準を設定しており、調査項目としても選定しているが、予測評価項目にはしていない。環境基準が新たに設定されるなど世間の関心も高まる中で、予測評価項目とせず、どのように考えていくつもりなのか。	水銀については予測項目として選定し、長期的な平均濃度について予測評価を行います。 微小粒子状物質については、特に二次生成物質についての予測技術が確立されていないため、予測を行うことは難しいと考えています。したがって、現況の調査を対象事業実施区域内で実施し、施設稼働後にモニタリングを行うことで評価を行う計画としていますが、再度検討して参ります。	
11	調査・予測・評価	大気質	水銀の予測はプルーム・パフ式などで行うのか。	プルーム・パフ式で予測可能であると考えています。	
12	調査・予測・評価	騒音・振動	道路交通騒音・振動について、測定の実施時期はいつか。供用時の予測は具体的にどのように行うのか。 関係車両の搬入時間のピークなどはどうように設定するのか。搬入時間の分布については住民に早めに公表するようにしていただきたい。	現地調査については、施設の稼働が停止している現在の状況を把握します。予測については、供用時の関係車両台数から、騒音の理論式等を用いて予測を行います。 また、搬入時間のピークについては、稼働を停止した旧北谷津清掃工場や、北清掃工場、新港清掃工場での搬入パターンを加味しながら台数の設定を行います。その分布については準備書の段階では明らかになりますので、公表して参ります。	
13	調査・予測・評価	動物・植物	動植物の調査はいつ行うのか。 年度ごとによって出現する種が異なる場合もあるので注意していただきたい。	動植物の調査については、工事の実施前に調査を行い、生息状況を把握します。各動植物によって出現時期が異なりますので、基本的には四季調査を予定しています。 特に湿性の動植物などが大草谷津田いきものの里に多く生息していますが、既存の調査資料なども踏まえ、発生時期や注目すべき種などに着目しながら調査を実施して参ります。	
14	調査・予測・評価	水生生物	調査を行うのは対象事業実施区域内の池のみか。	調査地域の中で、池は唯一水が溜まっている地点であり、池のみの調査を考えています。	
15	その他	—	パワーポイント資料で、予測・評価項目として、工事中の廃棄物の発生による日照障害や電波障害を選定しているが、資料の誤りではないか。	資料の誤りであり、正しくは施設の存在による日照障害や電波障害です。	